

焼き肉屋さんでの出来事に思う

副校長 細井 宏一

数年前の夏休みのことです。軽井沢にある評判の焼き肉屋さん、仲間とお昼を食べに行きました。有名店なので行列ができていないのではないかと思います、少々急ぎ足で行きました。店が見える所までくると、誰も並んでいないのがわかりました。「ラッキー！」とっていると、そこへ家族連れがやってきました。駐車場に車を停車し、同じように思ったのでしよう、急ぎ気味に降りてきました。父親が、小学2年生くらいの息子に「先に行って、順番をとってきなさい。」と話をしたようで、男の子は急いで走ってきて、丁度私たちが店前の階段を上ろうとした時に、すっと横から入ってきました。私は、少し不快に思いましたが、「子供ですし、どちらにせよ譲っただろうからいいだろう」と、そのままにしていました。

店内で、順番を待つことになりました。店員さんは先に並んだその男の子に

「何名様ですか？」

と問いました。その子は急に不安になったのでしょう、もじもじしはじめて、ついにお店から出て行ってしまいました。結局私たちが先に案内されることになったのです。

ところが、その後、父親と一緒にその子が入ってきて、

「ちゃんと順番をとっていなきゃだめじゃないか。しっかりしなさい。」

のような話をしていました。私は少し残念に感じました。「『お先にどうぞ』の気持ちが大事だぞ。」と教えてほしいものだと思ったのです。そのような横入りをした状態になっていたことを父親はわかっていなかったのかもしれませんが、交通標語にもある「お先にどうぞ、ありがとう。」の精神が大切だと思うのです。

ところが最近思います。グローバル化の時代、スピード勝負の時代です。そのようなんびりしたことを言っているのは国際競争では通用しないのかもしれませんが。ビジネスの世界では「他の人よりはやく！」というバイタリティが必要なのだらうと思います。これはもちろん「我先に…」 「人を押しのけてでも…」ということではなく、ルールの中で「誰も取り組んでいない新しいことを、誰よりも早く形にしていく」ということなのでしょう。また、実際社会では様々な状況・条件・背景があることですから、そんな簡単に語れるものではなく、上述した焼き肉さんの出来事とは、意味合いが違うのだらうとは思いますが…。

「グローバル人材育成」ということが、近年我が国において各方面で喫緊の課題として非常に多く叫ばれています。ある国際教育研究者の方から「グローバル人材には二つの方向性がある。一つは、国際競争力を持った人間ということ、もう一つは様々な人々との共生をしていける人間ということ」という話を伺ったことがあります。共生の精神も大切ですし、一方、競争意識は子供の学習意欲を高める効果があり、適度に必要であるとも思います。

競争と共生、そのバランス。難しいところですが、他人への思いやりの心を忘れずに、皆が成長していける社会形成を担う人材を育成していきたいものです。